

2013年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	電気通信工学科						
科目名	計算機システム						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年前期		
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)/必修科目(電気エネルギーコース)/必修科目(情報システムコース)						
担当者	松崎 隆哲						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセッサの基本構成をブロック図で表現し信号の流れを説明することができる。(A8,A9,B4) ・プロセッサの基本的な命令の動きとデータの流れを説明できる。(A8,B4) ・アセンブリ言語の基本的な命令を用いたプログラムの動きを記述できる。(A8,B4) ・アセンブリ言語を用い少ステップのプログラムを記述できる。(B5,C2) 						
日程と内容	4/10 導入講義・コンピュータの構成について 4/17 コンピュータにおけるデータの取り扱い 4/24 計算機の構成・命令セット 5/1 ASCの内部構成 5/15 ASCの命令サイクル 5/22 ASCの命令実行(1) 5/25 ASCの命令実行(2) 6/5 命令とデータ 6/12 メモリアクセス手法 6/19 計算機シミュレータ 6/26 計算機シミュレータ(2) 7/3 計算機シミュレータ(3) 7/10 データ構造 7/13 総合演習1 7/17 定期試験 7/24 総合演習2						
成績評価基準	定期試験		70%	実技		0%	
	臨時試験		0%	部外評価		0%	
	報告書・レポート		0%	プレゼンテーション		0%	
	課題		0%				
	演習		30%	計		100%	
授業到達目標の達成度	授業内容に関して、いずれの到達目標に対しても概ね達成している。						
反省点	プロセッサの内部動作に関して、基本的な部分としては動きやデータの流れは理解しているが、その意味や役割については十分に理解してもらえなかった。						
来年度の計画	プロセッサの動作について、図のアニメーションを用いてより理解できるようにしたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	アンケート項目「授業の内容は理解できましたか」の評価が3.8であり、計算機についてあまり理解をしてもらえなかった。また、「授業に刺激され授業内容に興味を持つようになりましたか」の評価も3.8であった。今後は、実例を挙げることで、イメージから理解できる様にして、興味を持たせるようにしていきたい。						
履修登録者数	66名	定期試験受験者数	54名	合格者数	46名	合格率	85%